



リベルサス®錠の正しい服薬を 支援するためのポイント

インタビュー日 | 2022年12月19日 場所 | ヒルトン福岡シーホーク

二田哲博クリニック姪浜
院長 **下野大** 先生



2021年2月に、日本で初めての経口GLP-1受容体作動薬であるリベルサス®錠が発売され、有効性・安全性に関する情報が報告されている。これらをうまく活用するためには、正しい服用方法を理解・実行していくことが不可欠である。

そこで今回は、福岡県福岡市で糖尿病をご専門に診療されている二田哲博クリニック姪浜 院長 下野大先生に、リベルサス®錠を処方する際の流れや正しい服用を支援するためのポイントについて伺いました。

Q1

リベルサス[®]錠をどのようにご紹介されていますか？ (実際の服薬支援)

リベルサス[®]錠は、DPP-4阻害薬から切り替えて使用することが多い薬です。そのため、「DPP-4阻害薬は、食事の際に体内で出るインクレチンというホルモンが壊れないようにして、間接的に血液中の濃度を高めています。リベルサス[®]錠はGLP-1受容体作動薬という種類の薬で、インクレチンに近いものを内服することで、直接的に作用します。」といった説明をしています。

説明の際には、いきなり薬の話だけををするのではなく、ご本人の理解度も考えながら“一歩手前”から話すようにしており、「食事をすると、体内ではインクレチンというホルモンが出て、インスリンを出すようにはたらきかけます。リベルサス[®]錠は、このインクレチンと構造が似ている^{*}ため、イ

ンスリンを出しやすくすることにより血糖値を下げる効果が期待されます。また、食事をしたというシグナルがあると食欲が落ちるため、満腹感を早く感じるようになったり、空腹感を感じにくくなったりする可能性があります。」といったことをお伝えします。

また、リベルサス[®]錠を処方するうえでは、年齢や体重、性別といったことより、患者さんの個々の血糖マネジメントの状況に応じて検討することが大切だと考えています。ただし、高齢の方に処方する場合に、特に処方開始時や増量時には、過剰な食欲低下や体重減少が起こっていないかについて注意深くモニターしていく必要があります。

● リベルサス[®]錠はGLP-1受容体作動薬という種類の薬で、インクレチンに近いもの^{*}を内服することで、直接的に作用します。

● リベルサス[®]錠は、体内のインクレチンと構造が似ている^{*}ため、インスリンを出しやすくすることにより血糖値を下げる効果が期待されます。

Q2

リベルサス[®]錠の飲み方について、 どのような点をご紹介されていますか？

インクレチンをはじめとする体内のホルモンは、内服すると基本的に酵素で分解されてしまい、血液中に十分に取込まれないという特徴があります。そこで、特殊な技術を使用して内服でも血液中に取り込まれるようにつくられたのがリベルサス[®]錠です。この点を伝えてから、具体的な服用方法の話へとつなげていきます。

GLP-1受容体作動薬でありながら内服薬として開発されたリベルサス[®]錠に使用されている特殊な技術というのが、胃から吸収されるようにする技術です。このことを踏まえて、

以下のようにリベルサス[®]錠服用の際の3つの注意点を説明します。

この中で、服用後30分間は飲食をしないという点については、自分のライフスタイルに合うのか不安に感じる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、ご自身の生活の中で朝一番に薬を飲むという状況が想像できていないだけという場合もあり、実際にやってみると特に問題はなかったという方もいらっしゃるかもしれません。

リベルサス[®]錠服用の際の3つのポイント

1日のうちの最初の
食事又は飲水の前に
空腹の状態服用



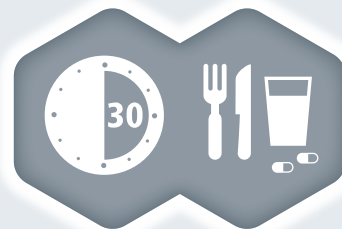
腸で吸収される一般的な薬とは異なるため、他の薬や飲食物と一緒に服用できません。

コップ約半分の水
(約120mL以下)とともに
1錠を服用



胃からきちんと吸収されるためには、適量の水が必要です。

服用時及び服用後
少なくとも30分は、飲食及び
他の薬剤の経口摂取を避ける



服用後すぐの飲食や他の薬の服用は、薬の吸収の妨げになります。

Q3

リベルサス[®]錠の副作用への対処を含めて、導入する際に注意していることはございますか？

リベルサス[®]錠は3mgから開始しますが、その際に、「維持用量は7mgですが、食欲の低下や吐き気などの消化器症状が出る可能性もあるため、3mgから開始し、4週間後に効果を診ながら7mgに増量します。」というように、維持用量である7mgまでを視野に入れて説明しています。

初回投与時や増量時において、消化器症状の出現に関しては注意が必要です。「食欲減退や吐き気などの症状が出現して服用を続けられないと感じたら、すぐ連絡してく

ださい。」と伝えています。消化器症状について話す際にも、「食事をする際に分泌されるホルモンとリベルサス[®]錠の構造が似ている^{*}ため、消化器系の症状が起こる可能性がある」というように、副作用の項目だけでなく、その“一歩手前”から説明することで、より理解していただきやすくなると思います。消化器症状のほかに、低血糖症状や他剤との併用についてもお話しし、次の受診時には、服用中の症状の有無について確認したうえで次の処方を検討します。

リベルサス[®]錠の開始投与量と漸増法

3 mg

1日1回3mgから開始

開始用量

7 mg

4週間以上投与した後、1日1回7mgに増量

維持用量

14 mg

1日1回7mgを4週間以上投与しても効果不十分な場合には、1日1回14mgに増量することができる

治療の強化

本剤3mgの治療により十分な血糖マネジメントが得られる患者については、本剤3mgでの投与継続が可能です。いずれの用量においても1回1錠を投与してください。14mgを投与する際には、本剤の7mg錠を2錠投与することは避けてください。

Q4

リベルサス[®]錠を服用される方へのフォローはどのようにされていますか？

治療継続中は、HbA1cやグリコアルブミンといった検査値、体重の推移などを診ていきます。一般的に、HbA1cなどの検査値が思うように下がっていない場合は、薬を正しく服用できていない可能性を考えるとします。このとき、「薬はきちんと飲めていますか？」といった聞き方をしがちです。しかし、リベルサス[®]錠の場合は、本人の自覚がないまま間違った服用方法を実践しており、薬の効果がでない場合があることを想定しなくてはならないと思います。服用方法に問題があるのではないかと感じられた場合には、以下のように、クローズドクエスションではなく、オープンク

エスションで聞いてみるのがよいと思います。

また、病院でのフォローだけでなく、薬局でのフォローも大切です。診察室で薬や治療に関する説明を聞いたうえで、さらに薬局で薬の説明を聞くことで、より理解が深まると思います。調剤薬局では、「リベルサス[®]錠が処方されているが、正しく服用できていないようだ。」と思われる場合に、薬剤師さんから病院にリマインドしていただけることがあり、助かっています。服用状況や併用薬など、病院で把握していない可能性のある情報を得た際には、早めに共有していただくとありがたいです。

クローズドクエスション

・起床後に服用していますよね？

・服用後30分間は飲食していませんか？

オープンクエスション

・いつ服用していますか？

・薬を飲むときの飲み物は何ですか？
・飲み物の量はどれくらいですか？
・他の薬はどうしていますか？

コップ半分
5時半 120mL
6時 氷
白湯

